



学校法人武蔵野大学 第二期中期計画

[2025年度～2029年度]

<2025年12月改訂版>

各設置校及び法人の第二期中期計画 [2025～2029 年度]

1. 武蔵野大学・大学院

【中期計画】

2024年の新生児出生数は68万人と70万人を割り込み、18歳人口が2033年までは段階的に、2034年から2041年までは加速度的に減少することが明らかとなっている現在、2025年度からの5年間は、将来にわたっての大学・大学院の飛躍の基盤づくりのために、重要な改革の期間となる。本学は、ここ20年の間に共学化、学部等新設により急拡大、成長してきた総合大学であるが、今後、首都圏私学においても学生確保に向けての競争が激しくなっていくことが予想されることから、「武蔵野大学」ならではの独自性のある教育研究の方法を追求し、その評価を国内外で高めることと、それによって得た成果に基づき、新たな市場を開拓することが必須である。これを実現すべく、本学では、ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する人材の育成・輩出を目指して「スチューデント・サクセスの実現」を推進していく。「スチューデント・サクセス」とは、個々の学生が目指す将来像（なりたい自分）や目標達成等の自己実現に向けて、成長実感、達成感、納得感が得られること（個としてのサクセス）、建学の精神に基づく本学での特色ある学びを通して、未来のウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献するスキル、能力、マインドを修得すること（社会におけるサクセス）の2点を本学卒業時までには実現することを意味している。これに基づき、5つの推進項目（チャレンジA～E）の事業計画を遂行する。

具体的には、まずチャレンジAで達成すべき出口目標として「スチューデント・サクセスを実現した人材の輩出」（DP）を掲げ、それを実現するための教育（CP）を整備・促進するチャレンジB、本学のブランドに共鳴する入学者を安定的に確保するための入試施策（AP）としてチャレンジCを配置する。そして、スチューデント・サクセス実現のための諸施策を支えるため、キャンパス空間等の環境整備、多様性・公平性・包摂性を備えた組織・体制の整備を推進するチャレンジDを配置する。更に、現状からの更なる飛躍に向けて大胆かつ抜本的な改革を行うべく、グランドデザインで柱建てされている新たな市場及び価値の創出を推進するチャレンジEを配置する。特に、スチューデント・サクセスの実現に向けた教育と教育環境の整備については、教育構造の再編成（体験型学修、討論・演習型学修、オンライン活用型学修）による教室稼働率の低減と、それに伴う学生の居場所確保・交流促進等のためのキャンパス空間の再設計及び教員の研究活動等を促進するための研究空間の整備、学部学科を横断する新たな副専攻の開設や共通科目の設置による学修の魅力向上、食環境の整備による学生のキャンパス居住性の向上等の武蔵野大学独自の施策を展開していく。

① チャレンジA ウェルビーイング社会の創造に貢献する Creative な実践者の輩出

響創的な学修を通じて Creative な実践者に必要な思考・スキルを修得し、スチューデント

ト・サクセスを実現した人材の輩出を目指す。本チャレンジでは、そのための体制構築、指標・評価の整備、学修成果の可視化に重点を置き、取り組む。

スチューデント・サクセスを実現した人材の輩出に向けた体制構築としては、スチューデント・サクセス及び社会で求められる能力をふまえた全学・各学科等3ポリシーの点検、再構築を行う。また、ウェルビーイング社会の創造に貢献する人材輩出を掲げる本学への企業等の理解を促進するとともに、社会で活躍する卒業生との連携促進施策を進める。

指標・評価については、進路・就職・資格取得等の成果に関わる従前の方法を見直し、客観的指標のみならず学生個人の希望実現度といった主観的指標に基づく評価の導入を含めて再検討を行い、整備する。在学時や卒業時における個人の満足度、推奨度、成長実感の度合いを反映させた、多角的な指標・評価を取り入れる。併せて、世界のウェルビーイングに貢献する人材の指標化を行い、それに基づく出口の質保証を徹底していく。

学修成果の可視化としては、未来の世界を主体的に創造する能力（アクティブな知）の修得の指標化や学修成果（ポートフォリオ、卒論など他者に説明できる自身の能力・自信の根拠となるもの）の成績評価の方針策定を行うとともに、それらを体系的に管理、活用できるシステムの構築や施策を検討し、展開する。

また、低学年からキャリア科目の全学展開を目指し、学科の特性に合わせつつ、教職員一体型のキャリア教育と就職支援体制を確立しながら推進していく。

② チャレンジB スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進

建学の精神を具現化する人格教育を推進するため、各教職員を通しての初年次からの自校教育の充実を図り、大学礼拝、新入生築地参拝等、建学の理念への理解を深める取組を推進する。また、各学科（主専攻）での学びに加えて、仏教副専攻（令和6年度設置）を全学的に推進し、建学の精神の根幹である仏教を「学（学問）」と「行（実践）」の両面から学び、現代社会の直面する諸課題に向き合う「智慧」と、生きとし生けるものへの「慈悲」をそなえた人材の育成を目指す。

その上で、スチューデント・サクセスに向けて学修者本位の豊かで生き生きとした学びを実現するため、「学修ジャーニー（学生の入学前から卒業までの期間における学修〔目標設定、学修内容、学修成果など〕過程・履歴と、それに対応した指導の過程・履歴）」と「響学スパイラル〔問い、考動し、カタチにして、見つめ直す〕」に基づきつつ、教育構造の再編とそれに伴うカリキュラム構築と授業設計を行う仕組みを確立する。また、I Rデータを活用した個々の学生の学修・活動・志向等のプロセス把握を進め、学修支援・キャリア支援・生活支援の体制を構築し、学生ひとりひとりのスチューデント・サクセスの実現を目指す。

③ チャレンジC MUのブランドに共鳴する学生の安定的な確保

第二期中期計画期間において、安定的に入学者を確保するためには、入試区分別の戦略として総合型選抜や学校推薦型選抜の目的や在り方を明確にする必要がある。

大学の規模及び質を維持するために、一般選抜の実志願者数を増加するための施策の検

討・実施を行う。

中高大連携策としては、同一法人校との連携強化、龍谷総合学園の高校との関係強化、本学の教育コンテンツを活かした高大接続プログラムの実施校の増加、高校との情報交換・共有などにより指定校の選定及び入試と連動した高大連携事業を推進する。

入試広報においては、スチューデント・サクセスを実現した学生やそれに向けて成長していく学生ストーリー（ジャーニー）及び、響創的な学修メソッドの教育事例等を戦略的に広報展開し、武蔵野大学への志願度の向上を図る。スチューデント・サクセスをキーワードとした入試広報を通じて志願者を獲得するための入試制度及び実施体制の見直し・改善を行う。

なお、これまでの取組で不足していた、中学校・高校、予備校、受験生の保護者に対しても充実した広報展開を行う。関係強化高校の設定、訪問・ガイダンス・広報物送付等の広報活動による関係強化を図る。高校・予備校との広報活動について一元管理できるデータベースを構築、教職員で共有し、相互に連携した広報活動を行う。

具体的な入試施策の検討にあたっては、現状を正しく把握するための情報の収集、分析が重要となる。法人としての情報収集、分析能力を高めるためのIR機能の強化を円滑かつスピーディーに行うとともに、分析結果を報告するだけでなく、入試施策に活用する仕組みを構築する。

④ チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creative な実践者を育む体制の整備

世界のウェルビーイングの向上に貢献する大学として、多様な学生・教職員が、差別されることなく尊重され、互いに認め合い協働できるよりよい体制と環境を再構築する。多様性（Diversity）・公平性（Equity）・包摂性（Inclusion）の推進は、その基盤である。

多様な価値観や異文化に触れる中で、固定観念にとらわれない高度な創造性が生まれる。学生のスチューデント・サクセス実現に向けた個別的で総合的な学生支援の体制強化、多様な学生生活の全学的支援、専門性や国籍文化の多様な学生・教職員が集う体制づくり・キャンパス空間整備を促進する。

⑤ チャレンジE 新たな教育市場と価値創出

グローバル市場における価値の創出に向け、アジアの仏教国などの海外市場を開拓し、グローバル市場で競争力を持つ研究領域の拠点化、新たな社会課題解決に向けたグローバル・オープンイノベーションによる研究を推進する。

また、時代、社会のニーズを先取りした新たな学びの提供を目指し、学部学科・研究科等の改組や通学・通信の一体化を見据えた教育組織を検討するとともに、メタバースキャンパス、オンラインコンテンツ等を活用した教室リソースに依存しない教育形態を検討する。更には、社会人の新たな学びの提供、地域社会との連携強化による多様な学びの場やコミュニティを創出する。各学科等においては学科において学生が目指すスチューデント・サクセス、

及びそれを実現するためのカリキュラムや教学運営上の工夫並びに教学上の目標等を定めた上で、特色ある取組の展開を通じて、各学科等における価値(ブランド)の創出を目指す。

通信教育部においては新たな教育システムを構築し、①建学の精神に基づきウェルビーイングな社会の構築に資する知識・教養を得られる学修機会、②円滑に学修を開始・継続し、卒業できるための学修支援、③「つながり」を感じられるプラットフォームを提供する。

2. 武蔵野大学中学校・高等学校

【中期計画】

仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据えて、以下の3つの施策を展開し教育活動を進めることで、大学附属校としての役割と、難関大学に挑戦する役割の2つの側面を両立させる。そして、先進的な教育に積極的に挑戦する姿勢を保ち続ける。

- ・ 「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要な教育プログラムの充実
- ・ 真なるグローバルな人材育成のための教育プログラムの充実
- ・ サイエンスを身につけるための教育プログラムの充実

共学進学校として、増加、多様化する生徒に対応した教育施設設備の充実化を図る。

教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制を確立させ、組織の活性化、並びに目的達成のために必要な教育コンテンツとスキーム作成ができる人材の開発・育成を進め、募集定員の充足、研究成果をはじめとする生徒の活動実績、大学合格実績の創出と、その実践の頒布を目指す。

3. 千代田中学校・高等学校

【中期計画】

- ・ 仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据えて、世界の幸せをカタチにすることを旨とした研究活動及び教育活動を推進するため、研究活動等における指導力の向上や施設・設備の整備等の施策を推進する。
- ・ 前身である千代田女学園設立者の島地黙雷先生が目指された「国際教養人の育成」を基に、国を越えた人類レベルで世界の幸せを追求するための体制構築及びそれをカタチにするため進路指導の充実を実現し、難関大学への進学者数を増加させる。そして、新たな価値の創造と実現を目指した実学を重視するために、教育環境構築の施策を推進する。
- ・ 目的達成のために必要な教育コンテンツとスキームの開発並びに募集定員の充足、研究成果をはじめとする生徒の活動実績、大学合格実績の創出と、その実践の頒布の実現のため、教員の教養力の育成と改革並びに組織体制の確立のための施策と、戦略的な広報活動を展開するための施策を推進する。
- ・ 法人全体ベースでの組織マネジメントを構築するため、実効的な組織運営とガバナンスを強化する人員・組織等にかかわる施策を推進する。

4. 武蔵野大学附属幼稚園

【中期計画】

本園ではこれまで、豊かな自然環境と大学附属園の強みを活かしながら、「あそび」を通じた学びを行ってきており、今後は教育理念を堅持しつつ、社会・地域ニーズを捉えた新たな特色ある教育プログラムの構築及び展開、教育学部幼児教育学科との更なる連携、並びに預かり保育や課外活動の充実等を積極的に推進することで、保護者ニーズに合致した魅力ある園づくりを目指す。

また、園と保護者との円滑なコミュニケーションは教育活動に不可欠の要素であることから、各種連絡ツールを活用した意思疎通の充実化、及び保育の「見える化」を更に拡充していく。また、幼稚園は地域コミュニティの一員であるとの自覚を強く持ち、地域住民や関連施設とも各種の幼稚園活動を通じて交流を深めることも重視していく。

施設設備面では、園舎の継続的な改修、園庭遊具等の更新など、園児が快適に、そして安心安全に過ごせる環境の充実を図っていく。

5. 武蔵野大学附属有明こども園

【中期計画】

令和2（2020）年に設置した有明こども園は、開園から5年を経過し、第一期中期計画が設置構想のプランを実行する段階であったとすれば、第二期中期計画はその反省を踏まえ、社会情勢や地域のニーズに合わせて自らを変革していく段階である。

園児や保護者のニーズの変化に対応しながら、教育理念である「響き合う教育・保育」を実践できるよう、職員の質向上と魅力あるプログラム展開を図る。教育的な特色である「わくわくプログラム」では武蔵野大学教員や外部の専門家と連携し、園児が多種多様な体験と知的刺激が得られるよう、内容等を継続的に検討し、改善を図る。

地域の子育て支援も認定こども園の役割の一つであり、幼児教育施設では珍しい図書室「えほんのもり」を中心とした子育て支援イベントの開催などを通じて地域貢献を果たす。

湾岸地区は人口が横ばいに推移しているものの転出入が多いため、周辺の開発計画や最新の人口動態を把握し、人口減にも対応した園児募集等の施策を推進する。

6. 法人

【中期計画】

①建学の精神の堅持及び未来への継承

本学の教育研究活動の根幹である「建学の精神」を引継ぎつつ、時代の潮流に即した新たな教育活動や仏教精神を体感する機会を検討し、創出することにより、「建学の精神」の堅持及び未来への継承に向けた体制・取り組みを強化していく。

②法人経営と教学の健全なガバナンス体制の構築・維持と執行体制の強化

令和7年4月の改正私立学校法の施行及び常務理事体制の見直し等に伴い、健全なガバナンス体制の維持及び執行体制の強化に向けた対応（評議員会の実質化、内部統制システムの整備、常勤監事及び会計監査人の機能化等）を実施する。併せて、大学を中心とした教学ガバナンス体制を整備し、法人及び各設置校のガバナンス・コードの実質化を図る。

③組織の活性化

長期人員計画に基づき、各部署の実態掌握を強化した上で、事務局各部署に適正人員を配置していく。また、適材適所とキャリア構築を意識した人事運営とワーク・ライフ・バランスにも配慮した働き方制度を構築することより、「やりがい」と「組織の帰属意識の向上」を図り、活力ある組織を構築していく。

④戦略的な広報展開

各設置校及び法人の認知度を向上させるため、法人広報戦略に基づき広報活動を推進する。法人広報戦略では、法人広報と入試広報を一体的に推進し、誰に何を何で伝えるかを明確にして、重要施策の選択と集中により重点的かつ効果的な広報を展開する。

⑤創立100周年記念事業の成功を次の10年50年への長期的な展望の起点とする

次の10年50年に向けた土台を築くため、創立100周年記念事業の終了後に各プロジェクトや各設置校の視点から効果検証を行い、ステークホルダーを巻き込んだインフラ整備や各種プロジェクトの発展的な施策展開等を推進し、創立100周年記念事業の取組を次の長期的な展望の起点とする。

⑥卒業生の組織化とロイヤリティ向上

同窓会が本法人を支える重要なステークホルダー・応援団であると認識し、卒業生・同窓会員のニーズを十分に踏まえて、母校への関心継続を図り、同窓会への誘因を構築していく。活力ある同窓会は、一朝一夕には出来ないことを念頭に粘り強く卒業生へのアプローチを図る。

⑦財政基本理念に基づく安定的な財政基盤の確立

学校法人武蔵野大学財政基本理念に基づき、限られた収入の中で効果的かつ継続的に予算を執行するために、財政分岐点指標を順守することにより、財政状況の健全性を検証しつつ、予算構

築と執行を適切に行う。併せて、資産活用を含めた新たな収入源の確保及び多様化を図ることで、安定的な経営基盤を構築していく。

⑧危機管理体制の確保

学校法人武蔵野大学危機管理マニュアルに基づき、法人及び各設置校の災害発生時及び事件発生時における初動体制を速やかに構築できる体制を整えるため、各教職員が決められた体制に基づいて行動をするための行動指針を策定する。

⑨教育研究基盤を強化する計画的な施設整備

持続可能性を確実にする法人運営を実現するため、武蔵野キャンパスは、令和9年度の新大学図書館の完成をはじめ、武蔵野キャンパスマスタープランに沿って、老朽化した施設設備の整備を計画的に行い、教育研究基盤の強化を図る。有明キャンパスは、長期施設設備計画に基づき計画的な更新を行い、開設当初の教育研究環境の維持を図る。千代田キャンパスは、高度な研究活動ができる環境整備を行う。併せて、学納金及び補助金以外の収入源を確保するため、土地・建物の有効活用施策を検討する。加えて、建学の精神の堅持及び未来への継承の実現を図るため、仏法を体感できる空間を新設する。

⑩DX推進による各設置校及び法人の現在価値の向上や新たな価値創出

学校法人武蔵野大学DX推進基本計画詳細に基づき、各部門のDX施策を着実に推進する。創立100周年記念事業SICプロジェクトで開発したシステム・ツールを通信教育部の変革やリカレント教育の展開に活用する。